

2016 9/13

No.2026

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



海老名市中新田地区で恒例の「かかしまつり」が3日、始まった。会場にはメジャー通算3千本安打を達成したイチロー、リオ五輪の体操男子個人総合で連覇を決めた内村航平など話題の人物を模した作品が並ぶ。19日正午まで。



contents

視点・点描	3
その言葉、正しいですか	
講演録	4
夢と絆～拉致が奪い去ったもの	
新潟産業大学経済学部准教授 蓮池 薫	
文 化	8
「シン」の成功は発想の転換に	
ゴジラ映画、累計1億人突破	
社 会	10
戦後日本型循環モデルの終焉	
求められる支え合う仕組み	
経 済	12
「びょうぶは広げ過ぎると倒れる」	
老舗の家訓が教えるもの	
企業最前線	14
注目集めるマイクロ水力発電	
上水道の管水路も利用	
暮らし2016	16
介護現場で広がる化粧療法	
広告珍談	18
広告はたのしい②③	
まっ赤っか！	
NNAアジア経済レポート	19

事務局だより

◇10月定例講演会

2016年10月20日(木)

午後1時30分～3時

ホテル横浜キャメロットジャパン5階「ジュビリーⅢ」

講師は日本大学法学部教授の
岩井奉信氏

演題は「現代日本政治と政局
のゆくえ」

視点 点描



その言葉、正しいですか

最近、校閲記者がギリギリと胃を痛めている問題があります。

具体的に例を挙げたほうが分かりやすいでしょう。例えば「雨模様」という表現です。降ったりやんだりの不安定な天候を表して用いられるケースが時折見られますが、本来は雨が降りそうな空の状態をいいます。さらに「汚名挽回」も誤用で、正しくは「汚名返上」。

「汚名を晴らす」は「汚名をすすぐ」です。

もつと取り上げてみましょう。話題に上ることが多いのでご存じの方も多いと思いますが、「怒り心頭に達する」は「心頭に発する」でなくてはなりません。「あとで後悔するぞ」との脅し文句は、考えてみるとおかしい。「後」の意味が重複しており「後悔するぞ」

だけでよいのです。これでは、すぐんで言ってみても、ただ恥ずかしいだけです。

こうした語句や熟語の誤用は、けっこう散見されます。実は以前からあったのですが、その頻度が増しているようです。こんなことを偉そうに書いているわたくし自身、校閲記者に用語の使い方を指摘されて辞書を確認し、「えーっ」と気付かされることがたびたびありました。

このテーマについて先日、文化面のコラムで書かせていただきました。自身の反省もありますが、イベントや公演のチラシにまで不適切な用法が目立つようになってきたためです。コラムは割合と反響を呼びました。作家や評論家の方から、もつと特集記事などできちんと取り上げるべきだ、との意見もいただきました。

ただし語句・熟語のなかには、

それが生まれた時代と現在の生活スタイルがまるで異なっているため、本来の意味では使いにくくなったものもあります。これらについては将来的に、古来の意味が淘汰され、新たな用法が認められるかもしれません。しかし、相応な論議を経たうえで踏み切るべきであり、国語教育に携わる人やメディアはあくまで現行の意味を大切にしなければなりません。

神奈川新聞社が加盟する日本新聞協会の用語懇談会では、誤りやすい表現をいかに周知させるか、常に話し合っています。文化庁国語課も「勘違いしやすい日本語」を集めて書籍化するなど、各界が正しい言葉が失われつつあることへの危機感を募らせています。このお話、あらためて紙面で取り上げてみたいと思っています。

(神奈川新聞社文化部長

丸山 孝)

まつ赤つか！

「色」は、さまざまに身のまわりに存在している。だけどだれも気にしない、およそ気にしない。

ところが気にして気になって、ここまで徹底してる人はめったにいない。岩谷松平というお方、まつ赤が好きだった。

自宅はもちろん銀座の店も、乗ってる馬車もまつ赤。着ている洋服も、きものも帯も足袋までもまつ赤。亡くなった奥さんの棺桶も、まつ赤だった。

どうしてそんなに、赤が好きなのか。われわれ日本人は、ヨーロッパやアメリカの人たちに比べて、まだまだ赤子である。だから赤を身につけて、いましめているのだと。すばらしいではないか。

図をどうぞ。「日本国民に告ぐ」とやたら高飛車なのは、「ペリリ

天狗」というたばこの広告である。

「嘉永六年七月十四日、相州久里浜に上陸せし、米国水師提督ペリリ記念碑除幕式に際し、米国政府はその摘孫・東洋艦隊司令長官ロジャース將軍、軍艦三隻を率いて、参列せしめたり。」

長い鎖国のトビラを開けと浦賀

にやってきた、ペリー率いるアメリカ艦隊。ペリーは久里浜海岸に上陸した。その記念碑の除幕式に、ペリーのマゴが来日したという。

「東洋の先進国として、欧米各国人に誇るを得たるは全くペリリ氏の賜もの。」「ペリリ將軍の恩恵、廣大無限。日本国民として一日も忘れるべからざるものなり。いわんや米国は茶に生糸に植民に、日本の大輸出国なり。」

わたしは「日本純粹最上等ペル

リ天狗たばこを謹製し、日本国民を代表して米艦將校、および水兵千九百七十名へ分与し、歓迎の意を表したり。なお日本人民がこの大恩人を忘却せざらしめんため、天狗たばこを発売す。愛煙を願う。」

わたしとは、岩谷のこと。「天狗煙草製造元 岩谷商會」のオーナーである。ペリー記念碑の除幕式で、「ペリリ天狗」と名付けた紙巻きタバコを、マゴやアメリカ水兵たちにプレゼントしたという。

広告は1902（明治35）年1月、国益新聞に掲載された。この新聞は岩谷がその前年に発刊した。出るクギは打たれるで、ほかの新聞がなにかと岩谷を攻撃。それに対抗して、「国益新聞」発刊した。

まつ赤つかは、サルのかつ……だと。だれだ、歌ってるヤツは！（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）